

樟木館日和

しゅもくかんびより◆第十四号



発行日:2016年10月9日

発行:文化のみち樟木館

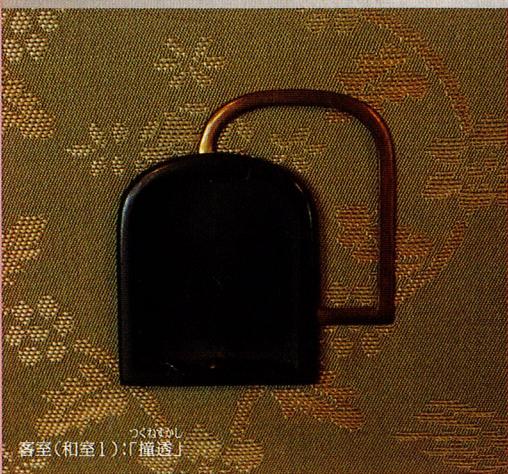
指定管理者:特定非営利活動法人樟木俱楽部



魅せる引手

居間(和室2):「菊透縁座玉子」

輸出陶磁器商、
井元為三郎によつて建てられた、
文化のみち樟木館。
大正末から連なる記憶を今へ伝え、
静かに佇むその館の随所に、
為三郎のこだわりや上質な遊び心を
うかがい知ることができます。
小さな引手ひとつにも…



客室(和室1):「壷透」



客室(和室1):「折松葉」

樟木館の襖引手

NPO法人樟木俱楽部理事長 伊藤喜雄

日本家屋の襖引手

日本の伝統的日本家屋は、大雑把に言えば「寝殿造(平安時代)」—「武家造(鎌倉時代)」—「武家造+禅寺の書院(室町時代)」—「書院造(室町時代)」—「数寄屋造(安土桃山時代)」—「書院造+数寄屋造(江戸時代)」と発達し、明治時代以降は武家文化と庶民文化が合体し、現在に至る日本家屋が造られた。書院造が現れる頃までは、「几帳や屏風、衝立障子」などを間仕切りにして部屋としたが、書院造が現れてからは、畳敷書院に天井が張られ、敷居、鳴居を取り付け、部屋の間仕切りに開閉式の「襖障子」や「明障子」が立て込まれ、「襖引手」が取り付けられた。

居間や書斎であった書院が、公式の表御殿として使われるようになると、大名や武家、公家、寺社の表御殿には、「御殿引手」や「房引手」などの豪華な襖引手を取り付けた。下屋敷や控屋敷、別荘などの書院は数寄屋造を取り入れ、様々な型、図柄、文様の襖引手を用いた。豪商や豪農の座敷も意匠を凝らした様々な襖引手を付けた。

素材・色付・型

襖引手の素材は、金・銀・銅・真鍮・鉄・赤銅(しゃくどう・金と銅の合金)・木・竹・七宝など様々で、近年では磁器引手も作られる。引手の色付けには、木の脂と煤での「焼」、緑青と硫化酸の混ぜ煮込み、蒸留酸ソーダでの煮込み、緑青と硫酸銅の混ぜ煮込み、錆付けや漆煮込み、松煙と漆、紅柄の混ぜ焼付け、漆と紅柄の混ぜ焼付などを用いた。引手の型や図柄も丸・橢円・角・御殿・玉子・利休玉子・角丸・透・華・舟・月・木瓜・菊・梅・竹・松葉・瓢・千鳥など、その変形や刻まれる文様などを含めると多種多様である。

樟木館和室と茶室の襖引手

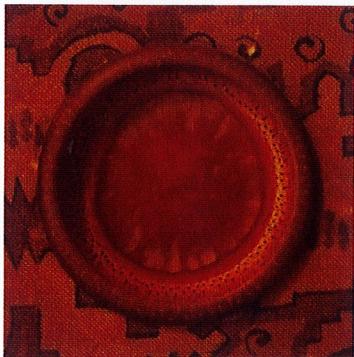
樟木館和室は大正14年(1925)に上棟された数寄屋を取り入れた平屋の建物である。樟木館の建築主である井元為三郎の人柄と洒落が懐ばれる樟木館の襖引手を是非探してみてください。



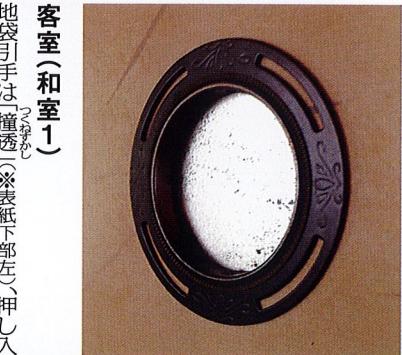
客室(和室1)



客室(和室1)

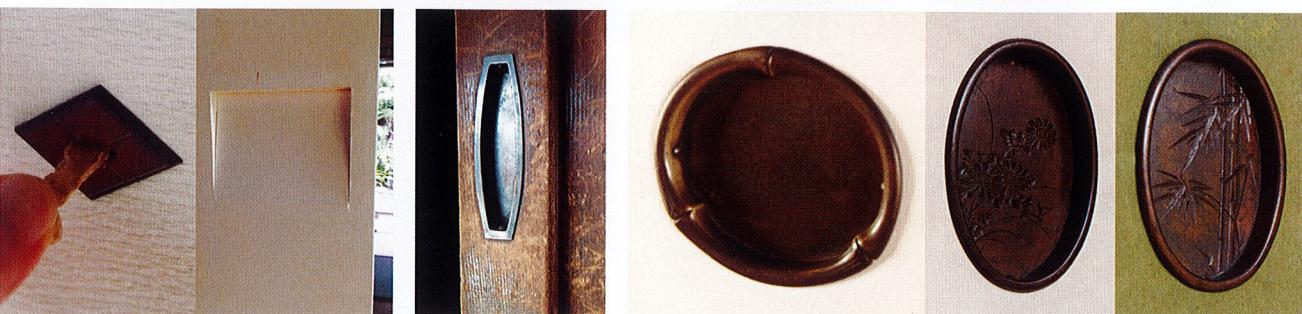


客室(和室1)



客室(和室1)

付書院の地袋引手は自然の「竹節」を用いており、庭園の茶室水屋の天袋引手も「竹節」を用いている。



茶室の給仕口の太鼓張襖引手は数寄屋造の茶室に使われる襖紙を折り込んだ「切引手」、水屋の天袋引手は前記したように「竹節」、茶器入れの開き戸には武田菱(ひし)彫引手を取り付けている。

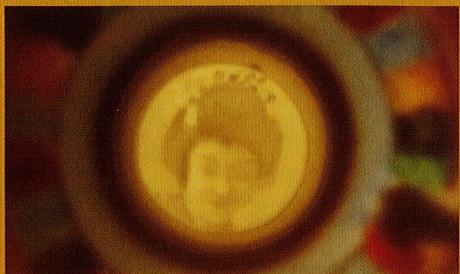
居間(和室2)

居間(和室2)の襖引手は、植物の「君子」と称された「蘭・梅・竹・菊」の「四君子」の「君子(けいしよ)」(※表紙上部)、「玉子華引手」で、「竹縁玉子」や「菊透縁座玉子」(※表紙上部)、利休玉子・飛梅・長木瓜丸透・長木瓜甲菊・角木瓜・黒円丸・欠円丸などの型を用いている。

名古屋は 美人の産地



NPO法人樟木俱楽部理事長 伊藤嘉雄



「透かしカップ」に描かれた名古屋美人(舞妓)
(文化のみち樟木館 展示室蔵)

色白丸ポチャの名古屋美人

江戸時代は瓜美玉子形の「天保美人」だったが、明治期には豊頬で「色白丸ポチャ」の丸顔が流行し、丸顔は名古屋の特徴と言つ者もあり、明治40年(1907)以降は美人顔として定着し、昭和6年(1931)頃まで、「名古屋は美人の産地」として知られた。

名古屋美人をモデルにした透かしカップ

明治末から名古屋の陶磁器は日本の主要輸出製品の一つとなつた。昭和初期の頃には、瀬戸で素地(白磁)を薄くして人物などが描かれた「透かしカップ」が作られ、その多くが名古屋美人(舞妓)をモデルに描かれた。透かしカップは、樟木館の建築主である井元為三郎が創業した井元商店などの陶磁器輸出・加工完成業者によつて欧米を中心に輸出された。戦後はGHQ占領軍(米軍)の帰国土産として多く製造されたが、現在は東区で1軒、複製品を製造しており、「名古屋陶磁器会館」で購入する事ができる。

名古屋美人「天下の三名妓 金波楼の金吾」

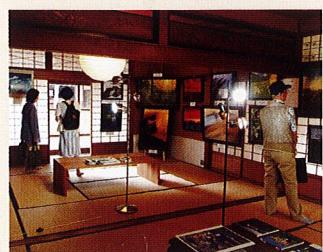
明治末に大須旭廓金波楼の芸妓「金吾」は、東京の「万龍」、大阪の「八千代」と共に「天下の三名妓」と呼ばれ、名古屋に来たらなる。金鯱と金吾を見ずに来た意味はなく、「金のしゃちほこ金波楼の金吾 いずれ劣らずよく光る空にや鮎鉾 地上に金吾 尾張名古屋は花ざかり」と頌われた。

名古屋初のファーストレディ?! 桂可那子

上前津(名古屋市中区)の料亭香雪軒の養女可那子は、美人で「城南の名花」と称された。明治24年(1891)名古屋の第三師団の師団長に赴任した桂太郎中将に見初められ、師団長官舎(現主税町長屋門)に出向いて太郎の世話をしたと言う。太郎は明治31年、陸軍大臣に就任し、可那子を妻とした。後に総理大臣に任命されたことから可那子は名古屋初のファーストレディになつた。

「日本初のアイドル?! 女義太夫の豊竹呂昇」
明治七年(1874)浄心(名古屋市西区)で産まれた永田仲子は、大阪の豊竹呂太夫に師事し、豊竹呂昇の芸名を貰つた。同31年に上京し、同40年、東京有樂座のこけら落としでの甘声と容姿、芸風は東京人を魅了し学生に喝采を浴び、有樂座の花形になり、「義太夫の花」と言われた。「大正評判女番附」の、西の蘭島に「川上貞奴」、小結に「下田歌子」、東前頭三枚目に「豊竹呂昇」、西前頭三枚目に「松旭斎・天勝」の名がある。八事興正寺の大日堂前にては呂昇の銅版レリーフを付けた壽碑(謝恩碑)が今も建てられている。

平成28年度 催し物暦 (4月~9月)	4/16~4/24	真多呂人形展 豊かな色ってなあに?
	4/27~5/8	なごや折り紙建築
	6/3~6/5	木工家ウイーク NAGOYA・2016
	6/15~6/26	尾張なごや・なつかし瀬戸電写真館



9/15~9/25
山・ときめきの瞬
写真展



6/15~6/26
木工家ウイーク
NAGOYA・2016



6/15~6/26
尾張なごや・なつかし瀬戸電写真館



文化のみち樟木館では、
館主催イベントをはじめ、
貸室利用による
イベントを年間通して
おこなっています。
当館では和室・洋室・茶室・
蔵・庭をお貸しします。
詳しくは下記の電話番号、
ファックス番号へ
お問い合わせいただぐか
ホームページをご覧ください。